

自動車台数五、〇四八台(内乗用車三、八一九台)と自動車の保有台数はますます増加するとともに、女性の運転が目立っている。

第二節 通 信

大口町に郵便局が開設されたのは昭和一八年一〇月で、近隣の町村に比べると非常に遅く住民待望の開設であった。

開設当初は特定局で請負経営であったが、時代の推移とともにしだいに経営形態も変った。

当時、業務の積極的拡大がはかられ貯金、郵便、為替、保険などを主として、その利用度は非常に高いものであった。昭和二六年四月には、業務の総合的な拡張、充実をはかる目的で局舎の新築、移動が行われ利用者への便宜がより一段とはかられるようになった。

ついで昭和三〇年には電信業務も一部開始され、その利用度もしだいに高まってはきたが、無集配であるとともに電話局でない点不便があった。



図3-112 大口郵便局

大口郵便局取扱い状況(昭和54年度)

表3-129 貯 金

取扱科目	取扱口数	取扱金額
通常貯金	48,219	1,787,231 <small>千円</small>
定額貯金	26,239	6,319,345
年金・恩給	2,301	264,627
その他	28,902	1,697,180
合計	105,661	10,068,383

表3-130 郵便物

郵便名	取 扱 数
書 留	17,970 通
速 達	18,270 通
小 包	12,620 個
料金別納	132,118 通
年賀はがき	628,960 枚

表3-131 郵便料金の推移

年 度	封 筒	は が き
昭和12年	4銭	2銭
〃 17年	5〃	2〃
〃 19年	7〃	3〃
〃 20年	10〃	5〃
〃 21年	12〃	10.5〃
〃 22年	1円50〃	
〃 24年	10円	5円
〃 41年	15〃	7〃
〃 46年	20〃	10〃
〃 51年	50〃	20〃

電 信 ・ 電 話

本町においては、これらの不便を解消するため、昭和三九年より関係機関に対し大口局の開設運動を進め、ようやく昭和四三年交換業務の自動化が進むなかで、無人局が下小口地内に開設され、運動の努力は実現した。

情報化時代がますます進行するなかにあつて、電話の加入、利用は増大し、日常生活のなかで不可欠なものとなってきた。本町における電話加入状況は、つぎの表に示すように増加し、昭和五〇年には普及率が九九パーセントになり、昭和五三年には加入台数四、一三七になっている。

一方、昭和四四年三月より開始された加入電信(テレックス)の加入者も増加し、今日では町内の事業所に数台設置

表3-132 電話加入数の変化(住宅用のみ)

(単位:台)

年次	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和38年	昭和40年	昭和45年	昭和47年
加入数	28	70	126	227	537	741	1,133
加入率		4.0	6.7	11.0	23.0	26.0	36.4

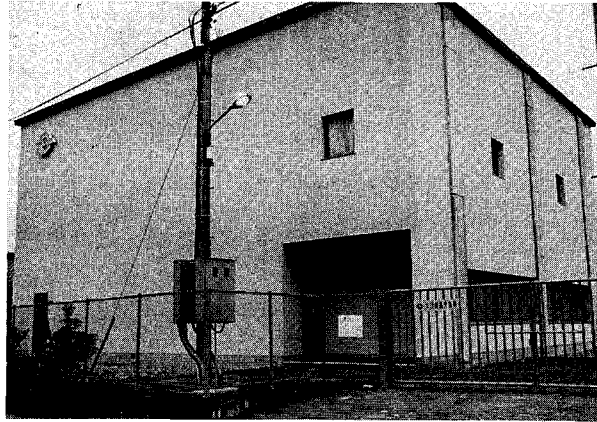


図3-113 大口電話交換局(無人化)

された。

農事有線放送電話施設

この施設は新農村建設事業の一環として昭和三二年四月認可をうけ、町内の農家と農家、農家と農協、役場あるいは学校、駐在所、商店などとの間の情報交換、通信の手段として、大きな期待の中で昭和三三年四月開通し町民に多くの便宜を与えた。

有線放送が架設された当時は今日と比べ公社の電話は非常に少なく、発足当時の加入者は、一、三六七戸で電話回線も六〇回線であったが、以後加入者が増加し昭和四二年には一、四九一戸となり、電話回線も一五〇回線に改修され、放送の番組も町民本位に編成され、また町内の連絡、部落の連絡などにも大いに活用され、いながらにして多くの用事がたせ、その効果は大いにあがり町内のさまざまな連絡、放送、そしてコミュニケーションづくりに大きな役割りを果たしたといえよう。

有線放送施設は当初、呼出し式であり同じ回線の家はよばれなくとも受話器をとれば他人の話を全部聞くことができ、有線電話での通話の秘密保持はできなかつたが、電話使用が非常に多く、その

交換は休むひまがなかった。

放送の主なものは農協・役場の連絡事項、火災などの緊急時の放送、学校、保育所などのお知らせであり、時には娯楽番組、教養番組なども取入れ町民に大いに喜ばれた。

昭和三四年九年に襲った伊勢湾台風の時、町民への情報機関として本来の役目を果たしたが、施設の被害も甚大であった。

こうした中で昭和四六、七ごろより町内には公社の電話が大いに普及し、電話の利用度も極端に減少し、またテレビの視聴率の高まりとともに放送番組への関心も低くなった。

昭和四八年には有線放送電話施設の継続使用許可申請時を契機に、電話器の老朽を考えあわせ、電話は公社電話と同じようにダイヤル式による、自動接続、秘話式に施設が改善され、会話が他人には聞えなくなり、より一層の有効的な利用の拡大が計られ今日に至っている。

○この施設の利用料 昭和五四年現在一か月 五五〇円

○この施設の加入者 一、四一一戸(昭和五三年)